

# 高温による開花期変動が起こりにくい8月咲きの小ギク新品種「春日の紅」

高温による花芽分化の早期化が起こりにくく、開花期の年次変動が小さい8月咲き小ギク新品種

## 研究開発の背景

- ・近年、温暖化による開花早期化によって8月盆出荷作型の需給が不安定になっている。
- ・そこで、高温の影響を受けにくく開花期の年次変動が小さい新品種を育成する。

## 研究成果の内容



**育成経過:** 「ともこ」(子房親)と「白山手」(花粉親)の交配で得た系統を、露地と無加温ハウスの高温区で比較栽培し、両条件での開花日の差が5日以内となることを基準に選抜

**生育特性:** 高温条件でも、花芽分化の開始時期および花芽の発達速度に差はみられず、平均開花日にも差がない。奈良県平坦部では、4月上旬定植で毎年、8月5日前後に開花し年次変動が小さい。

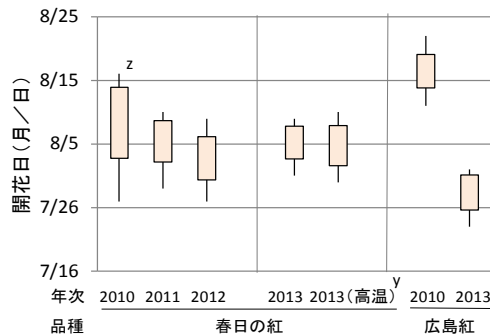


図 「春日の紅」の開花日における年次間変動  
 2) 図中の陽線および陰線は、平均開花日±標準偏差および開花始～開花終を示す  
 y) 2013年(高温)区以外は露地条件、高温区は無加温ハウスでの栽培

**品種特性:** 花弁は赤紫色 (RHS カラーチャート64A)、花径37mm、舌状花数20枚程度、頭花数28程度で頂花の正常開花する頂点咲き花房型の小ギク

導入メリット

かすがのべに  
 ‘春日の紅’は、高単価となる8月盆の直前に出荷時期が集中  
 →安定した収益確保に有効

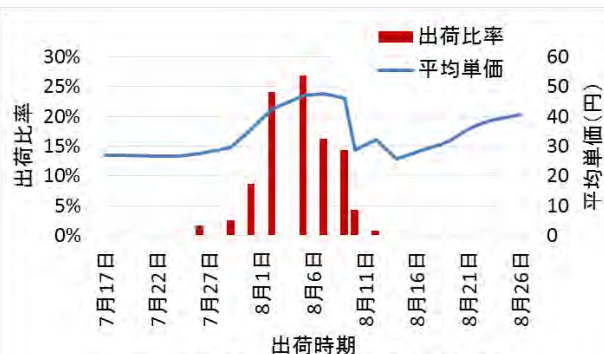


図 「春日の紅」導入の経営効果

平均単価は奈良県産小ギク(2013年)、出荷比率は県内での実証試験データから作図。

## 期待される効果

- ・8月盆の安定生産・供給を可能とすることにより、価格安定と国産競争力強化に貢献。

導入をオススメする対象  
 西南暖地の夏秋小ギク産地

※生産には奈良県との許諾契約が必要